

トップ
コミットメント

サステナビリティ
推進体制

JFRの
マテリアリティ

低炭素社会への
貢献

サプライチェーン
全体のマネジメント

地域社会との
共生

ダイバーシティ
の推進

ワーク・ライフ・
バランスの実現

事業会社の
ESGの取り組み

ガバナンス

データ集

Scope1・2温室効果ガス SBT認定取得 TCFD提言に沿った情報開示 → JFR環境マネジメント体制の構築 温室効果ガス削減取り組み策 ESGモデル店舗

JFR環境マネジメント体制の構築

事業会社ごとの目標設定

JFRグループでは、代表執行役社長を委員長としたサステナビリティ委員会を半期に一度開催することにより、温室効果ガス排出量削減目標達成に向けた、各事業会社の実行計画の共有および進捗状況の管理を行っています。さらに、取締役会ではサステナビリティ委員会で論議された内容の報告を受け、ESG課題への長期目標や取り組み進捗についての監督・議論を行っています。

また、各事業会社においても個別に温室効果ガス削減目標を設定しています。大丸松坂屋百貨店と消費科学研究所の2社は、ISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、年に1回、外部による監査を受審するなど、環境活動を推進しています。

今後も、当社グループは温室効果ガス削減目標達成に向けて、環境マネジメントにおけるガバナンスの強化に努めていきます。

環境データ算定・集計ルールの方策

JFRグループは、国内外において、百貨店店舗や事務所など400を超える活動拠点を展開しています。温室効果ガス排出量削減目標達成のために、当社グループの事業会社別および拠点別での温室効果ガス排出量を正確に算定するなど、グループ全体で標準化された環境データ算定・集計の仕組みが必須であると認識しました。その基盤づくりの一環として、2019年6月、Scope1・2温室効果ガス排出量算定・集計ルールを策定しました。

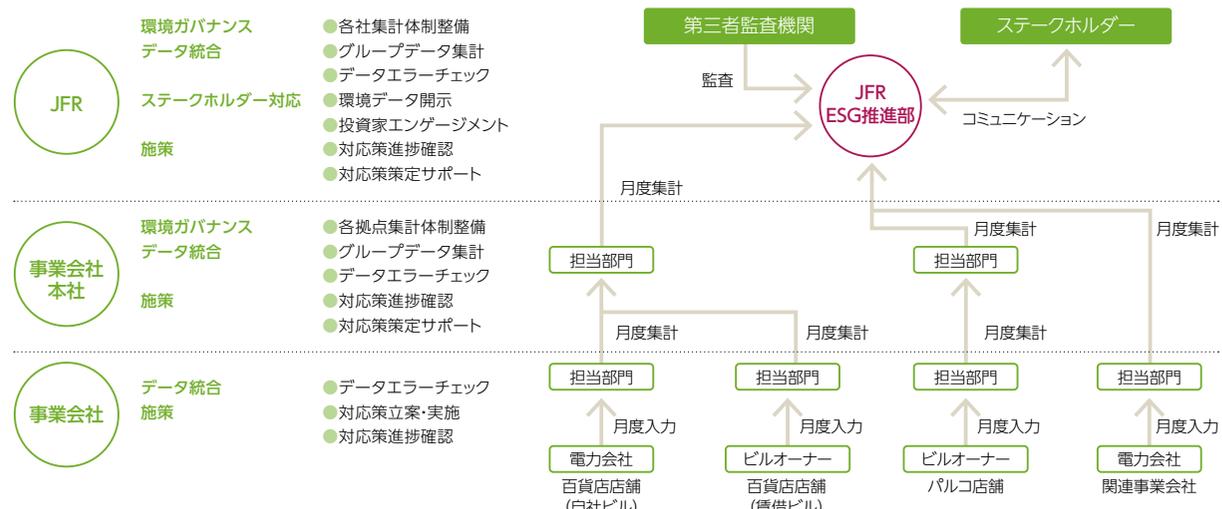
そのプロセスでは、はじめに、当社グループのScope1・2温室効果ガス排出量算定・集計の範囲の設定を行いました。温室効果ガス排出量算定・集計データの網羅性を確保する

ため、Scope1・2に該当する当社グループの活動拠点、期間、排出ガスの種類を明確にしました。

次に、温室効果ガス排出量を月度単位で進捗管理する仕組みを整備しました。温室効果ガス排出量算定・集計データの正確性を確保するため、月度の環境データ入力およびチェック体制、またエネルギー使用実績の裏づけとなる証書類の管理方法等を明確にしました。

2020年には、環境パフォーマンスデータ管理システムを導入しました。これにより、温室効果ガス排出量の算定・集計の効率化と正確性が向上し、温室効果ガス削減に向けたガバナンス強化による進捗管理を強化します。

JFRグループ環境データ算定・集計体制図



Scope1・2温室効果ガス SBT認定取得 TCFD提言に沿った情報開示 → **JFR環境マネジメント体制の構築** 温室効果ガス削減取り組み策 ESGモデル店舗

第三者保証の取得

JFRグループは、ステークホルダーに公表する環境マネジメント体制の実効性やエネルギー使用量および温室効果ガス排出量実績値に関して、第三者機関により正確性および信頼性を確保し評価されることが、着実な削減に向けて重要であると考えています。そのため、2019年7月、当社グループとして初めて2017年度および2018年度のScope1・2のエネルギー使用量および温室効果ガス排出量、また、その算定方法や適切性について、ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッドによる独立保証声明書を取得しました。

第三者機関における検証のプロセスとして、J.フロントリテイリングにおける算定・集計データのガバナンスの実効性の検証を実施しました。また、当社グループの温室効果ガス排出の現状を踏まえた、大丸松坂屋百貨店およびパ

ルコの主要店舗の実地検証を実施しました。第三者機関からは、グループ全体で400を超える拠点のエネルギー使用実績を網羅的に算定・集計できていることや、それぞれのデータの裏づけが取れる証書等によって正確に算定・集計できていることなどが評価されました。

また、2020年7月、2019年度Scope1・2温室効果ガス排出量とともに、当社グループとして初めて、Scope3温室効果ガス排出量についても、第三者保証を取得しました。

今後も、Scope1・2およびScope3温室効果ガス排出量算定・集計の精度向上のため、環境マネジメントの構築に取り組んでいきます。

📄 ➡ Scope3 温室効果ガスについて

独立保証声明書



2019年度環境パフォーマンスデータ (Scope1・2)

JFRグループ 温室効果ガス排出量およびエネルギー使用量*

	2019年度	対前年 (%)
温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	162,508	▲11.0
電力使用量 (kWh)	327,850,834	▲13.0
都市ガス使用量 (m ³ N)	5,125,938	▲4.5
蒸気・冷温水使用量 (MJ)	247,428,327	4.2
重油使用量 (kl)	6	0.0
ガソリン使用量 (kl)	559	▲14.7
天然ガス使用量 (m ³ N)	863	▲20.3
フロン (kl)	2,140	0.2

*ロイド レジスター クオリティ アシュアランス リミテッドによる第三者保証を取得

JFRグループ 事業会社別温室効果ガス排出量

	2019年度		
	排出量 (t-CO ₂)	シェア (%)	対前年 (%)
(株)大丸松坂屋百貨店 ※1	119,753	73.69	▲12.9
(株)パルコ ※2	40,214	24.75	▲4.2
(株)JFRカード	16	0.01	▲5.2
(株)J.フロント建築	375	0.23	▲29.8
(株)ディンプル	94	0.06	▲18.4
大丸興業(株) ※3	266	0.16	▲42.4
(株)J.フロントフーズ	348	0.21	▲10.5
(株)消費科学研究所	127	0.08	▲21.8
(株)エンゼルパーク	887	0.55	▲5.3
(株)JFR情報センター	273	0.17	▲26.9
J.フロントリテイリング(株)	155	0.1	▲3.4
J.フロントリテイリンググループ 合計	162,508	100.00	▲11.0

- ※1 (株)大丸松坂屋セールスアシシエイツ、(株)大丸松坂屋友の会、JFRカード(株)、(株)JFRサービス、(株)博多大丸、(株)高知大丸、(株)下関大丸を含む。
- ※2 (株)ヌーヴエイ、(株)パルコスペースシステムズ、(株)パルコデジタルマーケティング、PARCO(Singapore)Pte Ltd、(株)ジャパン・リテール・アドバイザーズを含む。
- ※3 大丸興業国際貿易(上海)有限公司、大丸興業(タイランド)(株)、台湾大丸興業股份有限公司を含む。